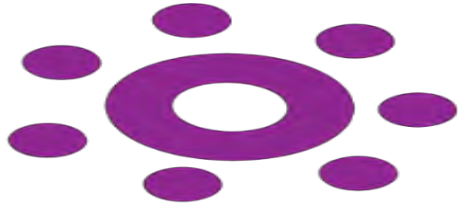


# 那覇西ロータリークラブ

国際ローター2580地区 創立1962年6月4日

2023年2月22日 週報 第2675号



## イマジジン ロータリー

### 那覇西ロータリークラブ年間テーマ

#### 「クラブ活動を活発にする」

四つのテスト

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を  
深めるか
4. みんなの為に  
なるかどうか

- 本日のプログラム  
2月22日(水)
- ・点鐘
  - ・ロータリーソング
  - ・それこそロータリー
  - ・会長報告
  - ・幹事報告
  - ・立食

#### 例会報告

第2800回(2023年2月15日)

#### 出席報告

会員数	出席数	欠席数	出席率	前々回 訂正出席率
54名	35名	17名	68%	63%

#### 欠席会員

糸洲、大城(博)、久保、渡慶次、丸橋、城間(巖)中村  
城間(一)、石垣、龍、照屋(紀)、照屋(圭)、小豆澤、  
上間、石川(元)福本、稲嶺会員

#### メイクアップ会員

糸洲 昇(2/6那覇南) 大原 博(2/10浦添)  
糸洲 昇(2/10浦添) 糸洲 昇(2/13那覇南)  
名幸俊海( ) 糸洲 昇(2/17浦添)

会長 新里順一 副会長:大嶺 香・中村 敦  
幹事:小林 充  
例会日 毎週水曜日 12時30分  
例会場 沖縄ハーバービューホテル  
事務局 那覇市松山1-1-14 那覇共同ビル6階  
TEL:861-7824 FAX:861-7825



ニコニコBOX

合計 ¥2,000 累計¥249,000

大城純市 2月9日から2月12日までフィリピンのバギ  
オの子供達と交流してきました。

2月度誕生祝い

名幸俊海(2月2日) 豊村良春(2月9日)  
大城純市(2月5日) 城間 一(2月23日)

1月度皆勤バッジ

石川正一(40年) 小林 充(6年)

会長報告 新里順一



1. 前年度（慶佐次年度）決算について、60周年記念誌の取り纏め他に時間を要したが目処が立った。  
4月第1週で前年度決算、その10日後に当年度の予算を出す。クラブ要覧も4月に発行予定。
2. 那覇商工会女性会メンバー約10名を4月の第一例会（4月5日）にご招待することに決まった。
3. 沖縄尚学の理事長より
  - ・東大/理1、女性。6年ぶりの東大現役合格。
  - ・阪大/医学部、男性。学校推薦合格。
 の報告があった。  
甲子園出場と合わせ盛り上げていこう。  
(3月10日に抽選、翌11日より大会開催)

## 幹事報告 小林 充



1. 組織再編のメールを送付しているので、各自所属委員会を再確認下さい。複数の委員会が連携して活動を進めることを意識し再編しました。  
内容について後日説明の機会を頂きます。
2. RYLA セミナー登録料の地区への送金メ切が迫っています。登録料の事務局への支払いをお願いします。

## バギオ報告/大城純市会員

- ・2/8～2/13 羽田空港経由ルートでバギオを訪問した。
- ・9日マニラ入り、そこから6時間掛けてバギオへ移動。  
10日に交流・贈呈式・家庭訪問を行った。11日は、マニラで日本大使館公使も招いての交流を行った。
- ・まだまだ子供たちは貧困にあえいでいる。なかなか勉強出来ない状況続いている。引き続き支援が必要だと家庭訪問をして強く思った。来年は台湾経由のルートも戻っていると思う。是非、参加検討頂きたい。

## 卓話 社会奉仕委員会/大田委員長

『奉仕の理念を未来へ繋ぐ』

決議 23-24 から紐解く奉仕の心』

1. ロータリーの根本になる考え方  
『奉仕の理念 The ideal of service』とは
  - ・超我の奉仕 Service above self
  - ・最もよく奉仕する者、最も多く報いられる  
One profits most who serve best
 に表される。  
『相手を思いやり、役立つ事をする』ことである。  
この基本理念がどの様なものか、どのように実践したら良いかについて説いた唯一の公式文書  
決議 23-24『社会奉仕に関する 1923 年の声明』について、
  - ・ロータリー創立から『奉仕の理念』確立までの歴史
  - ・決議 23-24 の概要
  - ・『奉仕の理念』を未来へ繋ぐ
 という流れでお話頂いた。
2. 決議 23-24 はロータリーの全ての活動の指針を示す第1項～第6項で構成されている。その中身は
  - ・国際ロータリーとロータリークラブ、ロータリアンのあるべき姿を明確にし、ロータリアンとロータリークラブが行う諸活動の指針を示す。
  - ・奉仕の理念を奉仕活動の実践に移すことを説く
  - ・奉仕の実践を巡る、理論派と実践派の対立の解決策を示している。
3. ロータリーは人生哲学であり、まずは自らが奉仕の理念を学び、常に携え、実践行動すること。  
この哲学を次世代に繋ぐことで、我々は価値ある未来を創ることが出来ると思う。
4. 結びに、真の奉仕を携える・身に着ける上で、折に触れて、奉仕の理念、印象に残った言葉・考えを思い起こして頂きたい。

ロータリーの活動の中で、皆さんとの関りの中で、自分がどこまで実践出来ているかを顧みながら、より高み（境地に至る）を目指していきたいとお話があった。

